

# 「ジャズの街・横浜」をめぐって

坪井邦明

港湾職業能力開発短期大学校横浜校港湾流通科

## 1 はじめに

「横浜」という地名に「ジャズの街」を冠するのをしばしば耳にする。それは「ミナト横浜」と同様、横浜の一つのアイデンティティであるのかも知れない。しかし筆者自身には、横浜が他の都市に比べてとくにジャズに触れる機会の多い場所とも感じられない。横浜は本当にジャズの街であるのだろうか。ジャズの故郷ニューオーリンズがアメリカ南部最大の港町であったことからの連想あるいは単なる幻想ではないのだろうか。

ここでは、横浜とジャズの関わりをめぐって、いくつかの考察を試みる。

### 1.1 ジャズについて

考察に先立ち、ジャズ<sup>1)</sup>について概観する。

ジャズは、20世紀初頭にアメリカで生まれた音楽の一つで、黒人音楽と白人音楽との結合によって生まれたとされている。それから半世紀の間に、ジャズは全世界に伝播した。もともとは大衆娯楽の音楽であり、ダンスとの結びつきが強かったが、1940年代以降、鑑賞対象とする傾向も強まった。1960年代には様々な先進的なジャズが起こる一方、ロックやソウルといった新しい音楽が盛んになり、それまでの圧倒的なジャズ人気は衰えたように見える。しかし、ジャズは特定の音楽であることを超えて、一つの音楽様式として成熟したと考えることもできる。

日本でも、大正時代にはすでに日本人のジャズ・バンドが存在した。太平洋戦争のためにジャズが禁止されるまで、大衆の間にも浸透し、人気を得ていた。ただし、ジャズと他の西洋(アメリカ)の娯楽

音楽との区別は曖昧で、本来のジャズとは言えない音楽もジャズと呼ばれていたようである。

戦争が終わると、アメリカ軍とともに新しいジャズが入ってきた。進駐軍向けの放送などを通して、一般大衆も新しいジャズに触れる機会は多かった。ジャズは、戦後の混乱を極めた一時期、日本の復興への明かりのように感じられたのかも知れない。

なお、ジャズの演奏形態の特徴の一つとして、ブラス・バンドとの共通性が挙げられる。そもそも、黒人によるブラス・バンドはジャズの重要な母体であった。このことは、ジャズに関わる歴史を考える上で重要な点である。

## 2 Web から見た「ジャズの街・横浜」

「ジャズの街」とは何を指すのだろうか。例えば次のようなことが考えられる。

- ・ジャズ発祥の地
  - ・ジャズに歌われる街
  - ・ジャズのコンサートやイベントが頻繁にある街
  - ・ジャズ演奏家が多数いる街
  - ・ジャズ愛好家が多数いる街
- など。

しかしここでは、これらに一々立ち入る余裕はないから、インターネットの Web 上の情報を拠り所として、横浜とジャズのつながりの程度を概観する。

### 2.1 Web からの情報抽出の手法

インターネットで閲覧できる Web には、膨大な量の情報がある。インターネット検索サイトの Google が把握する URL(Web ページのアドレス)の数は、2008年に1兆ページを突破し、その後も毎日数十

億ページずつ増えていると考えられている<sup>2)</sup>。

膨大な Web の情報から、直接に役に立つ情報が得られることは稀である。しかしそのような中から必要な情報を探し出す検索エンジンと呼ばれるツールが開発され、日々進化している。Google はその代表的なツールである。

Google に何らかの検索キーを指定して検索すれば、記述にその語を含む Web ページの一覧が示される。一度に表示されるのは、優先順位に従った上位の十ページであるが、同時に、すべてのヒット件数も表示される[注 1]。ヒット件数を比較すれば、検索キーに指定した単語の使用頻度が比較できることになる。

検索には、複数の検索キーを並記することができる。その場合、指定した検索キーのすべてが同時に含まれる Web ページが検索(つまり AND 検索)される[注 2]。

この機能を利用して、Web 上での語の共起関係を調査することが可能になる。二つの単語(検索キー)が同一 Web ページに存在することが多ければ、その二つの単語の関係は強い、逆に少なければ関係は弱いと考えられる。このような共起関係の強度を用いて、Web 上から様々な情報を抽出する試みがある。たとえば、研究者のネットワークを抽出しようという研究<sup>3,4)</sup> などがある。

共起の強さを求める指標には、様々な方法が提案されている。共起頻度、相互情報量、ダイス係数、Jaccard 係数、Simpson 係数、コサインなど<sup>3)</sup>である。ここでは Jaccard 係数<sup>4)</sup>を用いることにする。Jaccard 係数は次のように定義される。

語  $n$  を含む Web ページの集合を  $N$ 、語  $m$  を含む Web ページの集合を  $M$  として、 $n$  と  $m$  の単独でのヒット件数および  $n$  と  $m$  の AND 検索でのヒット件数をそれぞれ  $|N|$ 、 $|M|$ 、 $|N \cap M|$  とする。この時 Jaccard 係数  $J(n,m)$  は、次のように計算するものとする。なお、下式右辺の分母は  $|NUM|$  と同じである。

$$J(n,m) = \frac{|N \cap M|}{|N| + |M| - |N \cap M|}$$

## 2.2 「ジャズの街・横浜」の Web 検索

ジャズと横浜との関係だけではなく、他の都市との関係を合わせて調査し、その中で横浜の評価をすべきである。過ちなく調査するには、あらゆる都市を網羅的に扱うのが理想であるが、現在の筆者の環境ではそれは困難である。そのためここでは、手作業で扱える程度の都市を選んで、より本格的な調査は今後期待することとする。

まず、google で「ジャズ」を検索キーとして検索すると、約 65,600,000 件のヒットがある(2012 年 8 月初旬。以下同様)。これらのページに登場する都市名をすべて抽出すれば、比較対象の都市名が得られる。しかし、この膨大な情報は手作業では扱えない。そこで、Web ページのタイトルのみ限定して、しかも明示的に「ジャズの街」というフレーズを含むもののみを検索した[注 3]。検索キーを「ジャズの街」として検索すると、約 1,680 件となった。この中に現れる都市名を整理して、29 都市を得た[注 4]。ただし、市のみ限定し、町村、東京の特別区、その他の地域名(吉祥寺や十三、ミナミなど)は除外した。表 1 にある都市名がこの 29 都市である。以後、この 29 都市を対象に調査を行う。

表 1 の第 2 列には、各都市の法定人口を示す。表 1 は法定人口の降順で並べ替えを行っている。

次に、各都市名でのヒット件数を調査する。都市名には「市」を付けて、全体をダブルクォートして検索キーとした[注 5]。結果は表 1 の第 3 列に示す。

第 3 列の値を、各都市の法定人口(第 2 列)の値で除した値を第 4 列に示す。この値は、法定人口一人あたりの Web ページ数である。平均は約 40 件/人であり、およそ半分から 2 倍の範囲に分布している。この値は、各都市の情報発信の実態を示すと見ることができるかも知れない。大都市に比べて小都市の方が大きくなる傾向があるように見える。この件に関して本格的な調査をすれば興味深い結果が得られる可能性があるが、ここでは触れない。

各都市名との共起を調査する他方の検索キーは「ジャズ」である[注 6]。上述の通り、「ジャズ」だけで検索すると、約 65,600,000 件のヒットがある。

表 1 の第 5 列は、各都市名とジャズの AND 検索によるヒット件数である。この値から、各都市名とジャズとの共起の強さを示す Jaccard 係数を求めた。結果は第 6 列である。Jaccard 係数の値の共起率の高い順に、大阪市、横浜市、札幌市、神戸市、浜松市、仙台市などとなった。

また、各都市と「ジャズの街」との共起を求めた。結果を第 7 列と第 8 列に示す。ジャズとの共起とはまったく異なる傾向を示している。ジャズとの共起の強い都市は上位には入らず、佐世保市、宇都宮市、函館市、厚木市などが上位となった。これらの各都市について詳しく調査する余裕はないが、宇都宮市は著名なジャズ演奏家・渡辺貞夫氏の出身地で

あることから、行政主導で一種の街興しとして取り組んでいるようである。また、厚木市や函館市でも、市民を中心に同様の活動が盛んなようである。佐世保市については、朝鮮戦争時の米軍の駐留との関係から、かつてジャズが栄えた歴史がその背景にあるものと考えられる(本稿 3.4 参照)。

### 2.3 「ジャズの街・横浜」の程度

インターネット上に見る「ジャズの街・～」というのは、どうやら街興しのスローガン、キャッチフレーズのようなものであることが多いようである。街興しは、これまで、あるいは現在がどうであれ、これからジャズを盛んにして行こう、ということである。

表 1 都市名とジャズの Web 上での共起

| 1<br>都市名 | 2<br>法定人口<br>千人 | 3<br>都市名        |       | 5<br>都市名∩ジャズ    |           | 7<br>都市名∩ジャズの街  |           |
|----------|-----------------|-----------------|-------|-----------------|-----------|-----------------|-----------|
|          |                 | 4<br>ヒット数<br>千件 | 件/人   | 6<br>ヒット数<br>千件 | 共起強度<br>% | 8<br>ヒット数<br>千件 | 共起強度<br>% |
|          |                 |                 |       |                 |           |                 |           |
| 横浜市      | 3,690           | 74,700          | 20.2  | 1,190.0         | 0.855%    | 1.450           | 0.0019%   |
| 大阪市      | 2,666           | 118,000         | 44.3  | 2,060.0         | 1.135%    | 1.400           | 0.0012%   |
| 札幌市      | 1,914           | 42,100          | 22.0  | 779.0           | 0.729%    | 2.680           | 0.0064%   |
| 神戸市      | 1,545           | 43,900          | 28.4  | 707.0           | 0.650%    | 3.550           | 0.0081%   |
| さいたま市    | 1,223           | 32,500          | 26.6  | 363.0           | 0.371%    | 5.000           | 0.0154%   |
| 仙台市      | 1,046           | 30,100          | 28.8  | 538.0           | 0.565%    | 5.370           | 0.0178%   |
| 北九州市     | 977             | 22,700          | 23.2  | 350.0           | 0.398%    | 4.690           | 0.0206%   |
| 千葉市      | 962             | 28,300          | 29.4  | 396.0           | 0.424%    | 0.545           | 0.0019%   |
| 新潟市      | 812             | 18,100          | 22.3  | 246.0           | 0.295%    | 0.647           | 0.0036%   |
| 浜松市      | 801             | 19,900          | 24.8  | 544.0           | 0.640%    | 3.460           | 0.0174%   |
| 相模原市     | 718             | 17,500          | 24.4  | 198.0           | 0.239%    | 0.429           | 0.0024%   |
| 宇都宮市     | 511             | 12,600          | 24.6  | 174.0           | 0.223%    | 6.210           | 0.0492%   |
| 長野市      | 382             | 15,900          | 41.7  | 248.0           | 0.305%    | 0.464           | 0.0029%   |
| 岡崎市      | 372             | 12,700          | 34.1  | 171.0           | 0.219%    | 1.090           | 0.0086%   |
| 高槻市      | 357             | 13,300          | 37.2  | 202.0           | 0.257%    | 0.818           | 0.0061%   |
| 青森市      | 299             | 9,000           | 30.1  | 131.0           | 0.176%    | 0.429           | 0.0047%   |
| 函館市      | 279             | 10,600          | 38.0  | 112.0           | 0.147%    | 4.760           | 0.0448%   |
| 佐世保市     | 261             | 5,680           | 21.8  | 65.1            | 0.091%    | 4.670           | 0.0817%   |
| 八戸市      | 237             | 6,400           | 27.0  | 115.0           | 0.160%    | 0.321           | 0.0050%   |
| 春日部市     | 237             | 8,140           | 34.3  | 76.8            | 0.104%    | 0.149           | 0.0018%   |
| 厚木市      | 224             | 9,510           | 42.4  | 125.0           | 0.167%    | 4.230           | 0.0443%   |
| 松江市      | 208             | 6,380           | 30.7  | 89.0            | 0.124%    | 0.308           | 0.0048%   |
| 甲府市      | 199             | 7,240           | 36.4  | 117.0           | 0.161%    | 0.298           | 0.0041%   |
| 武蔵野市     | 139             | 13,600          | 98.0  | 272.0           | 0.345%    | 1.210           | 0.0089%   |
| 桐生市      | 122             | 5,300           | 43.5  | 77.0            | 0.109%    | 0.207           | 0.0039%   |
| 国分寺市     | 121             | 8,320           | 68.9  | 147.0           | 0.199%    | 0.198           | 0.0024%   |
| 日向市      | 63              | 3,340           | 52.8  | 56.3            | 0.082%    | 0.156           | 0.0046%   |
| 富里市      | 51              | 3,480           | 68.1  | 36.8            | 0.053%    | 0.112           | 0.0032%   |
| 根室市      | 29              | 3,120           | 106.9 | 34.0            | 0.050%    | 0.161           | 0.0051%   |

それに対して、横浜のジャズはもう少し根付いているように見える。しかし、横浜だけが突出してジャズと関係が強いわけではない。大阪、札幌、神戸なども、同程度にジャズと繋がりがあがる。だから、「ジャズの街といえば横浜である」とは言えないが、「横浜は(も)ジャズの街である」とは言えそうである。

### 3 歴史からの考察

上で見たように、横浜は確かにジャズとは関係が強い。表 1 でジャズと強く共起する都市を拾ってみると、横浜以外にも、大阪、神戸、仙台のように、港のある都市が上位に入っていることに気づく。また、「ジャズの街」とのもっとも強く共起する佐世保は、軍港の町である。さらに、江戸末期の修好通商条約で開港した港のすべて(長崎ではなく佐世保であるが)が表 1 にはあがっている。このような港湾との関係は偶然ではないであろう。

#### 3.1 文化の伝播と港湾

文化の伝播においては、交通や流通が重要な役割を担う<sup>5)</sup>。交易により移動する物そのものも文化を担っているのであるが、物だけでは文化は成立しない。物の移動を担う、あるいはそれに付随する人の移動が、文化の伝播を担う。

古代から現代まで、特に周囲をすべて海に囲まれた日本では、交易には、特に遠隔地との交易では、海運が多く用いられてきた。物が集積され、人が集まり、また出入りする港湾は、文化の伝播においてその受容と中継とを担ってきた。

異文化の音楽の移入に関しては、大きく二つに分類することができる。一つは、たとえば奈良時代に中国の音楽(雅楽)を移入したような、あるいは明治時代に西洋クラシック音楽を移入したような、権力による人為的な移入。もう一つは、たとえば九州の民謡が東北にまで伝播したような、音楽文化の自然な伝播である。

後者のような文化の伝播に関して、港湾が重要な役割を果たしてきたことには、様々な具体的例があげられる。「ハイヤ節(あるいはアイヤ節)」と呼ぶ

民謡は、江戸時代から明治初期まで活躍した北前船によって九州から北海道まで広まったことがわかっている<sup>6)</sup>。「～おけさ」や「～甚句」と呼ばれる民謡もハイヤ節の系統であるものが多い。また、北九州で生まれた民謡「まだら」が、日本海沿岸の港伝いに北陸沿岸まで伝播したことが示されている<sup>7,8)</sup>。

港町にはこのように、外に向かって開かれた、異文化を受け入れる力がある。ただし多くの場合、受け入れた異文化を最終的に熟成させるのは港町そのものではなく、その後背地であった。

#### 3.2 横浜港における異文化音楽の受容

さて日本海沿岸には港を介して、上述のように広く分布する民謡があるが、横浜でそれに相当する民謡を、筆者は知らない。明治初期までの海運はむしろ日本海側で盛んであったこと、横浜そのものは江戸末の開港以前は小さな漁村に過ぎなかったこと、逆に、近くの陸上交通(東海道)が盛んであったことなどによるのであろうか。ただし、風待ち港のあった三浦には、「三崎甚句」<sup>9)</sup>という民謡がある。

開港後の横浜が異文化受容に能動的であったのはむしろ、横浜が開港とともに人為的に作られた街であり、伝統的な文化がなかったことの方が重要であったかも知れない。横浜には、幕府によって呼び集められた商人たち(投機的商人も多かった)をはじめ、各地から様々な人が集まり、外国人の居留地が置かれた。また、東京が直接的に外国と接触することを避けようとする政治的配慮から、多くの文物は東京の外港としての横浜に入ってきて、もともと何も無かった横浜で文化として開化した。

#### 3.3 軍楽隊

横浜とジャズの関係を考える上で、軍楽隊(ブラスバンド)<sup>10)</sup>は重要である。西洋式軍事訓練は軍楽から始まったとも言える。最初の軍楽隊は長崎海軍伝習所でオランダ人によって訓練されたが、1869年には薩摩藩の横浜駐屯兵がイギリス人の指導で吹奏楽団を結成した(横浜市中区の本牧山妙香寺

は日本吹奏楽の発祥の地とされている<sup>12)</sup>。

明治以降、横浜や横須賀には海軍が置かれ、軍楽隊が設けられた。様々な式典などで演奏される軍楽隊、すなわちブラスバンドの音は、一般庶民の耳にも届いていった。たとえば、すでに 1872 年(明治 5 年)の鉄道開業式には軍楽隊が演奏をしている<sup>11)</sup>。さらに、やがて軍楽隊を退役した楽士たちは街でさまざまな楽隊として演奏を始めた。このような楽隊は全国に広がっていったのであるが、横浜において盛んであったことは想像に難くない。

### 3.4 駐留軍とジャズ

戦後の米軍が横浜に駐屯したこと<sup>13)</sup>の意味は、こうした素地の上で見ると、きわめて大きい。

米軍基地には、米軍将兵のための娯楽施設も多数設けられた。当時のアメリカで最も人気のあった娯楽音楽はジャズであったから、多くジャズが求められた。高級将校の多い東京(将校クラブ OC)に比べて横浜(兵員クラブ EM)ではことのほかジャズの需要が高かった。

横浜・横須賀にはかつて軍楽隊があったから、ジャズ(ビッグバンド)の演奏に欠かせないブラス・プレイヤーが多数いた。彼らを中心に、多数のジャズバンドが横浜・横須賀地区から生まれた。

しかし、この時代にジャズが盛んに演奏されたのは、あくまでも米軍施設(日本人オプリミット)内でのことである。ところが、1950 年に勃発した朝鮮戦争のために朝鮮半島により近い九州方面に部隊の中心が移動したこと、1951 年にサンフランシスコ講和条約が締結されたこと、などから、横浜の米軍はやがて縮小・撤退していった。すると、米軍将兵向けに演奏していた大量の音楽家たちは失業することになる。そこで彼らは、日本人向けに演奏を始めることとなった。つまり、米軍の撤収こそが横浜の庶民とジャズのつながりを生んだとも言えよう。

### 3.5 輸入レコード

通商のために横浜に居留する外国人や、外国船の船員らの出入りする本牧などの店では、大正

時代にはすでにジャズのレコードが掛けられていた。昭和初期には、日本人向けの「ジャズ喫茶」<sup>14)</sup>も開店する。戦後、ジャズを一般の日本人が聞くようになって、生演奏をしばしば聞けるわけではないから、レコードでジャズを聞かせる「ジャズ喫茶」が横浜で盛んになった。

ジャズのレコードは(すべて)米国からの輸入盤であり、したがって横浜はその入手に有利であったであろう。ただし外国盤のレコードを直輸入する業者が早くから横浜にあったかどうかは定かではない。いずれにせよ、音楽文化のパッケージであるレコードという物資が横浜港に入って来たことが、そこにその音楽文化を堆積させたことに疑いはない。

なお、ジャズのレコードは戦時中に敵性音楽として処分されてしまい、新たな輸入盤が手に入りにくかった戦後の一時期、ジャズ喫茶では掛けるレコードが足りなかった。そんな時に米軍将兵の慰問用に製作された V ディスクと呼ばれるレコードを手に入れられた<sup>14)</sup>のも、横浜が進駐軍の駐屯地であったからである(V ディスクは米軍の備品であり、施設外への持ち出しは禁じられていた)。

### 3.6 横浜におけるジャズの熟成

様々な歴史的経緯から、ジャズが横浜で盛んになったのは上述のとおりである。しかし、そのままジャズが横浜で文化として熟成されているのかと言え、なかなか肯んじ難い。たとえば、日本のジャズを代表する原信夫が横浜から活躍を始め、横浜出身の国民的大歌手・美空ひばりがジャズを歌っていたにしても、である。

前述のとおり(表 1 でみたように)、横浜とジャズとの Web 上での共起関係は、強いけれども突出しているわけではない。とりわけ、横浜と”ジャズの街”との共起関係はむしろ弱い。つまり、これからジャズを盛んにしようというような機運はない、とも考えられる。

ジャズはもはや、横浜だけのものではまったくくない。表 1 では、検索キーの指定の困難さのゆえに東京(の特別区)については触れていないから、デ

一夕に基づく議論はできないが、おそらく、ジャズが最終的に文化として熟成されたのは東京である、と言わざるを得ないであろう。

#### 4 おわりに

歴史的に見れば、「ジャズの街・横浜」は故あることであった。江戸末の開港以来、様々な異文化を受容してきた横浜であるが、ジャズはその最たるものの一つであった。

しかし、一般に、港湾は異文化の受容においていわば玄関口であり、港湾の直背後の港町を通過して、玄関に対して奥座敷とも言える後背地の大都市においてこそ文化として熟成されるのが常であった<sup>5)</sup>。横浜におけるジャズも、明治・大正時代の洋楽<sup>15)</sup>と同様に、そのような経過を辿っているのかも知れない。奥座敷とは、無論、東京のことである。横浜港はそもそも、江戸・東京の外港として開かれたのであった。そう考えれば、横浜がこれから先も「ジャズの街・横浜」というアイデンティティを持ち続けられるとは言い難いであろう。

さらに、文化、特に音楽文化の伝播において、港湾の果たす役割はほとんど無くなってしまった。かつて流通・交通が担っていたことが現在、少なくとも音楽の伝播に関しては、インターネット<sup>16)</sup>さえあれば事足りる。インターネットは多対多の双方向性すら実現し、そこにはコミュニティが築かれている。音楽(楽曲だけでなく、ソフトウェアだけで実現する「楽器」も含めて)は、世界中の共時的現象になってしまっているのである。これから先、横浜が「港湾都市である」というそのことのみによっては、新しい音楽文化が移入され、あるいは生まれることはないであろう。

開港前に100戸足らずの小さな漁村であった横浜村が、一世紀半の間に膨大な人口移入と市域拡大の結果、市としては日本最大の都市となった。しかし、都市規模の拡大に反して、都市としてのアイデンティティを失ってきたように思う。「ジャズの街・横浜」も、もはやノスタルジーになってしまったのかも知れない。

**謝辞** 日本ポピュラー音楽学会の鈴木孝氏には本稿の全般にわたり多くの有益な示唆をいただいた。東京大学大学院情報理工学系研究科助教の土肥浩氏には Web 検索に関して重要な助言をいただいた。松島俊明氏(東邦大学理学部)、風間吉之氏(国立公文書館)、水野良彦氏、久保田貴也氏(立命館大学)にも示唆・助言をいただいた。本稿のいくつかの部分は学生の森雅尊君との議論によるものである。以上記して感謝する。

#### 注

[注 1] 多くのページがヒットするような場合、示されるヒット件数は、必ずしも正確とはいえない。本来の検索の利用目的からして、たとえ 50000 件のヒットがあったとしても、ユーザーは最初の数十件にしか興味がなく、50000 件という数字は単に指標としかならないから、おそらく google は、推定の値を表示するものと思われる。

[注 2] 検索キーが多数あった場合、google では最初のキーでの検索結果に次のキーの検索をかけ、その結果に三番目の検索をし、というような厳密な方法をとっているようではない。これも、なんらかの方法で推定しているものと思われる。

[注 3] タイトルのみを対象とする検索は、検索キーの前に allintitle: を付すことで行える。

[注 4] 検索キーをダブルクォートで囲った場合、google ではフレーズ検索となる。フレーズ検索にしないと、たとえばこの場合であれば、検索キーを「ジャズ」と「街」に分割して検索することになる。すると「"ジャズの街"」に対して「ジャズの街」では 20 倍近くヒット数が増えてしまう。

[注 5] 横浜は横浜市と(ほぼ)同じであるが、大阪や千葉、長野などは「市」と「府・県」があり、公平な調査ができない。また、「市」を付けるだけでは google によって検索キーが分割される可能性があるので、フレーズ検索とする。フレーズ検索は「さいたま」の場合は特に重要である。もっとも、「大阪市」では「東大阪市」もカウントされるような問題は残る。

[注 6] 検索キー「ジャズ」については、「"ジャズ"」とは

しないことにする。「ジャズ」に対して「”ジャズ”」ではおよそ4倍以上のヒット件数となってしまふ。これは、「ジャズ」は google のインデックステーブルに存在する単語であろうが、「”ジャズ”」ではたとえば「アル・ジャズイーラ」などもヒットする。

### 参考文献

- 1) 音楽大事典、『ジャズ』の項, pp.1064-1070, 平凡社.
- 2) 「グーグル、Web 上のユニーク URL 数が 1 兆を突破したと報告」, IDG Interactive, Inc. , “<http://www.computerworld.jp/topics/576/116889>”.
- 3) 松尾豊, 友部博教, 橋田浩一, 中島秀之, 石塚満: Web 上の情報からの人間関係ネットワークの抽出, 人工知能学会論文誌, vol.20, No.1, pp.46-56(2005).
- 4) 森純一郎, 松尾豊, 石塚満: Web 上からの人物に関するキーワード抽出, 人工知能学会論文誌, Vol.20, No.5, pp.337-345(2005).
- 5) 山上徹: 現代港湾の異文化の賑わい(特に第2章と第11章), 成山堂書店(2003).
- 6) 竹内勉: はいや・おけさと千石船, 本阿弥書店(2002).
- 7) 坪井邦明, 高田正之, 野瀬隆, 金城厚: 民謡研究のための歌詞音列間距離の計測, 第34回情報処理学会全国大会講演論文集, pp.2219-2220(1987).
- 8) 金城厚: 沿岸における民謡の様式と伝播—〈まだら〉を中心に, 日本の沿岸文化, 第4篇第1章, 古今書院, pp.166-177(1989).
- 9) 町田嘉章, 浅野建二(編): 日本民謡集, 岩波文庫, 岩波書店(1960).
- 10) 小西潤子, 志村哲, 仲万美子: 音楽文化学のおすすめ—いま、ここにある音楽を理解するために, ナカニシヤ出版(2007).
- 11) 細川周平: 「ブラスバンド, ジンタ, チンドン屋—ブラスバンドから見た日本の近代化」, 文献<sup>10)</sup>所収, 第2章, pp.21-36(2007).
- 12) “<http://myokohji.jp/brass.html>”.
- 13) 神奈川県立歴史博物館(編): 特別展ヨコハマ・ヨコスカ ストーリー—二つの港町の戦後文化—, 神奈川県立歴史博物館(2012).
- 14) 吉田衛: 横浜ジャズ物語「ちぐさ」の50年, 神奈川県新聞社(1985).
- 15) 齋藤龍: 横浜・大正・洋楽ロマン, 丸善ライブラリー025, 丸善(1991).
- 16) 村井純: インターネット新世代, 岩波新書 1227, 岩波書店(2010).